

日本航空株式会社 2024年3月期 決算 ご説明・解説



JAPAN AIRLINES



2024年5月
代表取締役副社長執行役員グループCFO 斎藤祐二

©Japan Airlines, All rights reserved.

1. 2023年度 業績概要
2. 2024年度 業績予想
3. 中期経営計画ローリングプラン2024

注.(1) 当資料における表中の値は、金額は億円未満を切り捨て、比率は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
(2) Q4(1月-3月)の実績はQ4累計実績(4月-3月)からQ3累計実績(4月-12月)を差し引いて算出しております。
(3) LCC=Low Cost

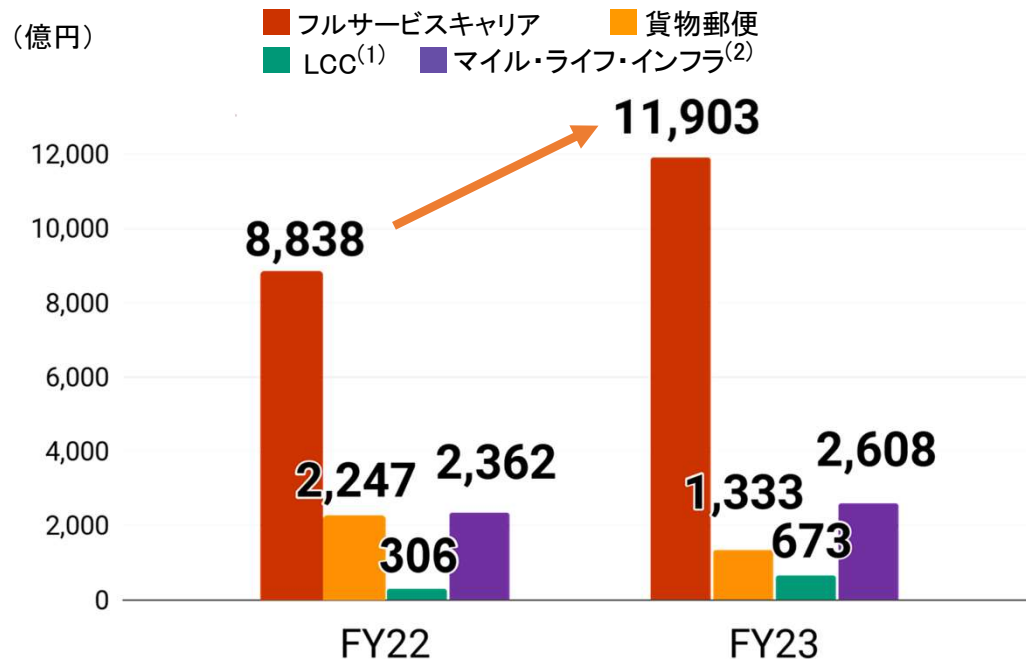
JALグループ 2023年度 連結業績

(単位：億円)	2019年度 (コロナ禍前)	2022年度	2023年度
売上収益	13,859	13,755	16,518
費用	13,088	13,446	15,422
EBIT	888	645	1,452
EBIT=財務・法人所得税前損益（税引前損益から利息等の財務収支を除いたもの）			
純損益	480	344	955
純損益=親会社の所有者に帰属する当期損益			

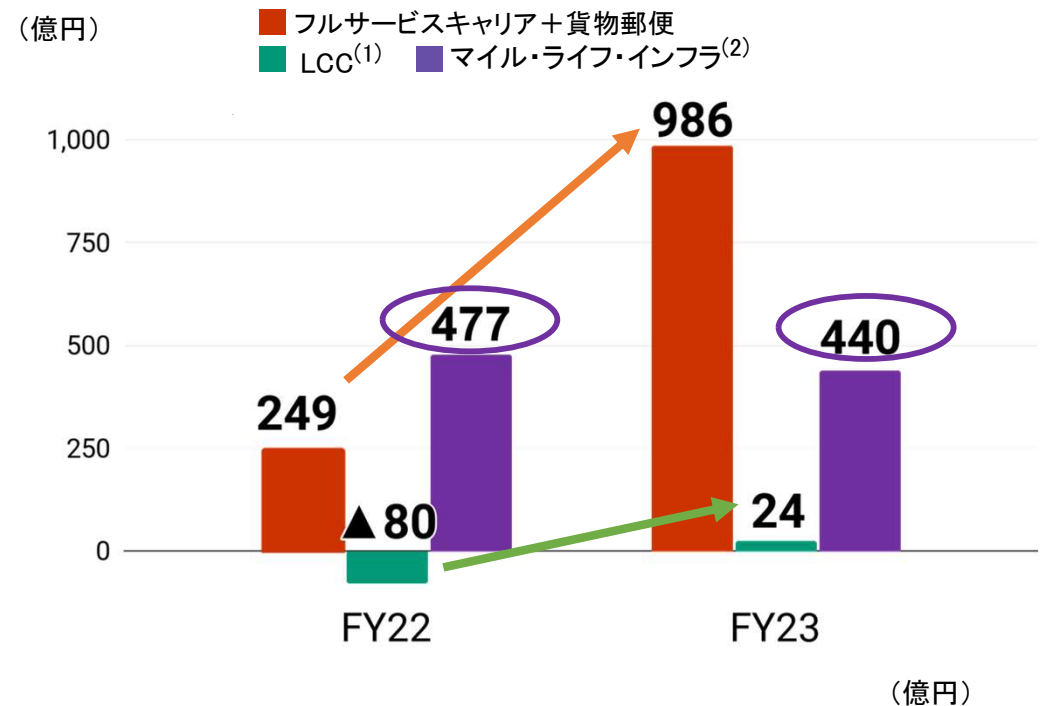
2023年度 事業領域別実績

- ✓フルサービスキャリア事業領域がけん引し、売上収益・EBITは大きく増加
- ✓LCCのEBITは黒字に転換、マイル・ライフ・インフラは安定的に利益を計上

事業領域別 売上収益



事業領域別 EBIT



- ・ 事業領域別の売上収益・EBITについては、社内管理上の簡便的手法で試算したものであり、事業セグメント別の売上収益・利益ではありません
- ・ 事業領域区分は、航空運送事業セグメント、その他とは一対一で対応しておりません
- ・ 今後社内管理ルールの変更等により、事後的に変更される可能性がある、あくまでも便宜的な数値であることをご了承願います
- (1) 売上収益は、連結子会社のZIPAIRおよびSPRING JAPAN、EBITは、連結子会社2社に加えて、持分法適用会社であるJetstar Japan
- (2) マイル・ライフ・インフラ=旅行・マイル提携・受託事業収入など

1. 2023年度 業績概要
- 2. 2024年度 業績予想**
3. 中期経営計画ローリングプラン2024

JALグループ 2024年度 業績予想・配当予想



(単位：億円)	2023年度 実績	2024年度 予想	増減額
売上収益	16,518	19,300	+2,781
費用	15,422	17,750	+2,327
EBIT	1,452	1,700	+247
純損益	955	1,000	+44
1株当たり 配当金額	75.0円 (中間 30.0円、期末 45.0円)	80.0円 (中間 40.0円、期末 40.0円)	+5.0円

1. 2023年度 業績概要
2. 2024年度 業績予想
3. 中期経営計画ローリングプラン2024

中長期的に取り組むテーマ (中期経営計画ローリングプラン2024)

2030年に向けたJALグループのあるべき姿JAL Vision 2030の実現に向けて、
事業のサステナビリティを高め、社会的価値と経済的価値を創出



関係・つながりの創出

「人・モノの移動」「人・モノのつながり」
を増やし、関係人口を拡大



GX戦略

2050年度CO₂排出量実質ゼロの実現に
向けた環境対応



人的資本経営

多様な人財が多様に活躍できる
環境・文化を醸成

<社会的価値>

環境
地域社会
人

+

<経済的価値>

お客さま
社員
自社

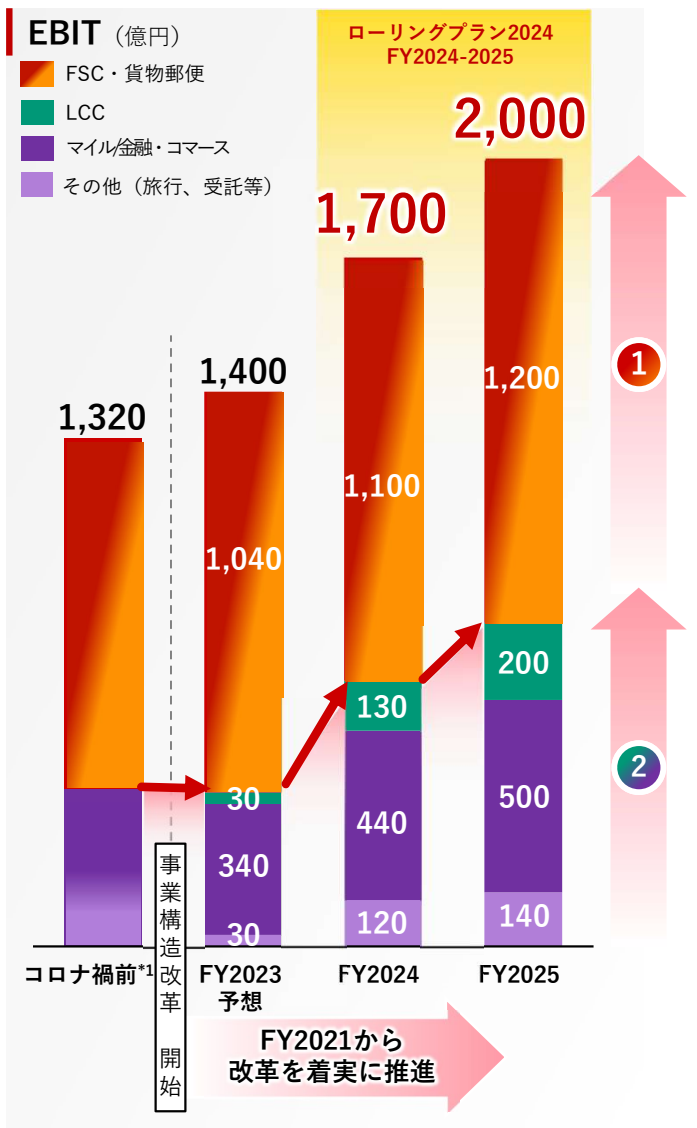
企業価値
の向上

GX : Green Transformation

事業構造改革

(中期経営計画ローリングプラン2024)

ESG戦略の推進により、FY2025 利益目標の達成、レジリエンスと成長性を備えた事業構造を実現



1 利益構造の再構築

	国際旅客	国内旅客
フルサービスキャリア	- 競争力を強化し単価を維持 - インバウンド需要のさらなる獲得 - アウトバウンド需要の喚起	- 収益力強化 - 関係人口の創出とインバウンド需要の地域誘客 - 持続可能なネットワークの構築
貨物郵便	貨物専用機事業の新規展開	戦略品目の輸送による単価の維持・向上

2 利益の拡大・成長

LCC	・ 事業規模の拡大や積極的な国際線展開	
マイル・ ライフ・ インフラ	マイル/金融・コマー্স	グランドハンドリング受託
	・ 日常生活でのマイルをためる機会の拡大 ・ ワクワクする特別な特典の開発 ・ コマー্স事業の取扱高拡大による成長	・ インバウンド需要のさらなる成長に向けて事業を拡大
		エアモビリティ
		・ 地域のソリューションを提供 ・ 新たな空の移動価値を創出

事業セグメント別の収支を明確化し、事業ポートフォリオ経営を推進

※報告セグメント変更にもなう調整額は未反映

*1 コロナ禍前：FY2019実績から新型コロナ影響を除いた数値 (FY2019 Q3決算発表時に開示した業績予想値(IFRS))

経営資源配分

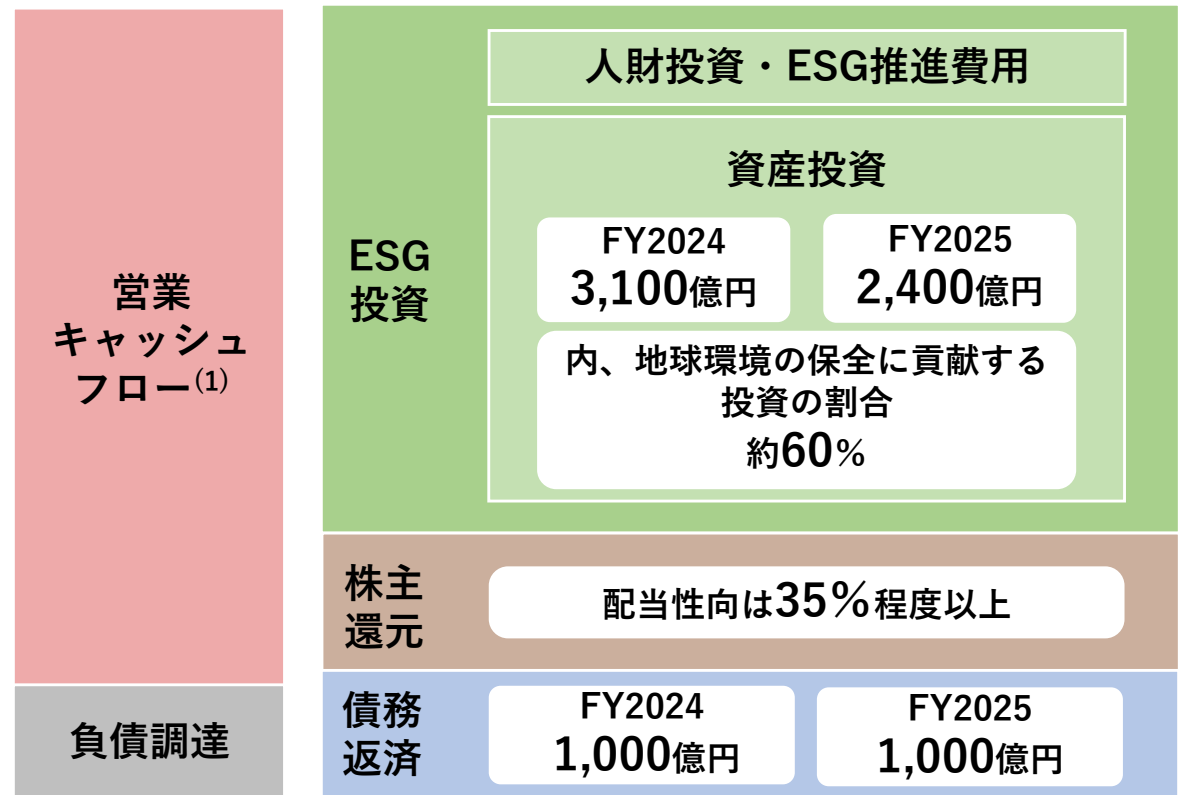
(中期経営計画ローリングプラン2024)

- ESG投資(人財投資含む)を増やし、成長の加速、生産性向上、環境対応を推進する
- 配当性向は35%程度以上。適正な株主還元を継続する

FY2024-2025 イメージ

<キャッシュイン>

<キャッシュ配分>



■成長の加速

- ・フルサービスキャリア領域は早期に新型機材を導入
- ・LCC領域の事業拡大
- ・マイルを中心とした非航空領域の強化

■生産性向上・効率化

- ・人的資本の向上により、エンゲージメント向上、社員還元を充実
- ・空港旅客、営業、予約業務において人的生産性約3割向上 (FY2030)
- ・ランプハンドリングの省人化による人的生産性約2割向上 (FY2030)

■環境対応の推進

- ・FY2024-2030累計 CO₂排出量 約750万トン削減
- ・創出される社会的価値 約1,100億円⁽²⁾

(1) 人財投資・ESG推進費用を除いた営業CF (2) ICP (Internal Carbon Pricing) 15,000円/t を用いて試算